

2025 年 9 月 30 日

## 「冷凍食品業界における容器包装 3R 推進のための自主行動計画」

### 2024 年度フォローアップ調査結果

一般社団法人日本冷凍食品協会

#### <はじめに>

当協会は、2006 年（平成 18 年）3 月に策定した『冷凍食品業界における容器包装 3 R 推進のための自主行動計画』（第一次）では、2010 年の最終年度に 2004 年度比で原単位あたり 3%削減の目標を設定し、5.8%削減を達成した。

その後、2012 年（平成 24 年）3 月に策定した『同第二次自主行動計画』では、2015 年度までに 2004 年度比で原単位あたり 9%削減する目標を設定し、18.9%削減と大幅に目標を上回った。2017 年（平成 29 年）3 月に策定した『同第三次自主行動計画』では、2020 年度までに 2004 年度比で原単位あたり 22%削減する目標を設定し、2020 年度で 35.5%削減と大幅に目標を上回った。

さらに、2024 年 3 月に策定した『同第四次自主行動計画』では、基準年の 2022 年度比で 2030 年度まで毎年 1%削減（原単位）とすることとした。

3 Rとは、リデュース (Reduce : 減量)、リユース (Reuse : 再利用)、リサイクル (Recycle : 再生利用) のことであるが、このうち容器包装リサイクル法の対象が一般廃棄物として家庭から排出される容器包装であり、また、家庭用冷凍食品（一部業務用も含む）の容器包装はほとんどプラスチックであるため、調査対象は家庭用冷凍食品（一部業務用も含む）のプラスチック容器包装としている。

また、この自主行動計画では、「取組みの結果については毎年度検証し、公表する」としていることから、フォローアップ調査（2024 年度実績）について家庭用冷凍食品メーカー9 社を対象に実施した。

2024 年度の家庭用冷凍食品容器包装のプラスチック使用量は、容器包装を多く使用する製品の製造・販売拡大の影響を受け昨年より増加した。プラスチック使用量原単位（冷凍食品販売数量当たり）は、基準年である 2022 年度比では 1.6%減少と、2030 年度まで毎年 1%減少（原単位）とする目標を達成できなかった。

ただし、トレイ削減や薄肉化、内袋ロールサイズの小型化、外箱を発泡スチロールから段ボールに変更、包装形態を変更することで商品サイズを小型化して配送段ボール小型化など冷凍食品メーカーのプラスチック使用量の削減努力は引き続き 2024 年度も実施されている。

## ＜2024 年度フォローアップ調査結果＞

調査対象：家庭用冷凍食品を製造・販売する大手 9 社

対象商品：プラスチック製容器包装を使用した家庭用冷凍食品  
(一部業務用も含む)

指 数：2022 年度を 100 とする

目 標：2022 年度を基準に 2030 年度まで毎年 1%削減（原単位）

※原単位：冷凍食品販売数量当たりのプラスチック容器包装使用量

年度	2022	2023	2024
容器包装 使用量 (トン)	18,939	17,875	17,971
同 指数	100.0	94.4	94.9
製品販売量 指数	100.0	96.1	96.4
原単位	<b>100.0</b>	<b>98.2</b>	<b>98.4</b>

※基準年の 2022 年度及び 2023 年度の数値について、一部企業より訂正が入ったため修正しています。

